

「神奈川県公立高校入試」入学者選抜学力検査の結果 および、合格者平均点推移からみる対策

神奈川県公立高等学校入学者選抜学力検査の合格者平均点推移（6カ年：2018年～2023年）

年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023
5科計	264.8	263.0	288.3	301.2	287.6	292.8
英語	56.1	49.8	49.4	54.6	52.1	55.3
数学	56.0	50.3	55.7	58.2	52.9	53.0
国語	65.5	59.1	69.1	65.7	61.3	75.1
理科	45.3	61.3	55.9	50.1	58.9	51.0
社会	41.8	42.5	58.2	72.6	62.4	58.4

※ 2021年度入試は新型コロナの影響で、テスト範囲に制約あり

※ 2022年度入試から新課程導入後の試験

2023年度で特徴的なのは、国語が75.1点と高得点であることです。合格者得点分布も81～90点台が一番多く、国語の成績で合否が分かれた高校もあるかもしれません。ただし、記述問題の正答率が17.1%と極端に低く課題です。日ごろから文章中の情報を抽出し制限された語数で、まとめ上げる練習が必要です。

理科は、2018年以前まで、社会は、2019年以前までのテストは難易度が高く、合格者平均点も40点台でしたが、直近5年の平均点は上がっており、2022年、2023年の社会は、60点前後、理科は、50点台となっています。今回のテストでは、理科が難化しましたが、50点台と予想内の範囲内でした。

2023年度の理科において、正答率が低い問題として「実験や観察で見られる現象の原理を問う問題」などが挙げられています。単に暗記するのではなく、なぜそのような実験をするのか、なぜそのような設定が必要なのか、なぜそのような手順になるのかなど常に理由を自ら説明できるようになっておきましょう。

地理・公民では、読解・情報処理や資料の読み取り・計算が必要な問題が出題されることがあります。歴史では、年代順だけでなく、横へのつながりの練習がますます重要となっています。単なる語句の暗記だけでは通用しないので、教科書を何度も繰り返し読んでストーリーを繋げていくことも大切です。社会において、定期テストは高得点をとれても模試で点数が伸びない方は、数多くの入試演習問題に取り組んでください。そのことで、入試のようにいろいろな角度で出題される問題にも強くなることができます。

英語ですが、整序問題（対話の流れを理解して単語を正しく並べる）と、長文読解における正誤問題（本文の内容にあう英文を選ぶ設問）の正答率が低いです。

まず、整序問題ですが、文法を正しく理解して意図的に使わないと解くことが難しい問題となっています。英語の文構造（S,V,O,C）や、品詞（動詞、名詞、形容詞、副詞など）など英文法の理解度を上げておく必要があります。教科書ベースの教材だけでは無理があるので、体系的な文法学習教材で学習する必要があります。

長文読解の正誤問題については、本文の内容や選択肢の内容を完全に覚えておくことは不可能です。解き方を練習して自分に合った方法を見つけることが大切です。また、指導者はそれぞれ解き方のコツを持っているので、指導者にアドバイスをもらうこともお勧めします。

最後に、英語の問題は英語力だけでなく、英文や資料から必要な情報を読み取る情報処理能力も求められます。英検で準2級や2級の取得者でも苦戦することがあるため、準2級以上の取得者は、問題に早期に取り組んで解き方のトレーニングをしておきましょう。

数学における、得点分布（合格者）ですが、50点台を中心としてきれいな正規分布になっています。入試問題には基礎問題、標準問題、応用問題が均等に含まれています。目指す高校に応じてどのレベルの問題まで解くのかあらかじめ決めておきましょう。目安は、基礎問題だけで40点、標準問題までで60点、70点以上を目指す生徒は、応用問題を解ける実力を身につけておきましょう。なお、70点以上の取得者は、15%未満（合格者）、80点以上は、5%未満です。英語で、80点以上の取得者が20%以上であることを考慮すると数学で高得点をとることが難しいことが分かるかと思います。

対策ですが、基礎レベルは、問1、問2などの計算問題、小問集合になります。基礎レベルを目指す生徒は、1問も落とさないように練習を積んでおきましょう。また、大問3の一部でも解けると得点がアップします。標準レベルは、大問4～6の（ア）や、（イ）などに当たります。そのため60点を取るためには、すべての大問で得点が必要です。苦手な単元は克服しておきましょう。応用レベルは、大問4～6の（イ）や、（ウ）また、問3の平面図形（エ）の問題になりますが、思考し試行する問題（思考力や試行錯誤が必要な問題）となっています。まずは、応用問題に取り組んで、解くための引き出しを多く持つておきましょう。確率は一見難しい問題に見えますが、手を動かして試行することで、解答までたどり着ける問題が多いです。あきらめずに最後まで考え抜きましょう。